

ほつかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎ 011-210-5802 FAX 011-210-5826

道立教育研究所では、地域や学校の中核となる教員の育成を目指し研修事業を展開しておりますが、教科指導等研修においては、授業改善を推進する教科指導のリーダーを育成することを取り組みの一つとして取ります。ご承知のとおり、今日、思考力・判断力・表現力等を育成するための手立てとして、言語活動の充実の重要性が説かれており、当所においても、これら的能力を育成する教材活用方法の理解の促進を図っているところです。

さて、新聞の活用について、高校の学習指導要領解説からいくつか紹介します



学習指導要領と新聞活用

北海道立教育研究所
研究・相談部研究主幹

坪川 泰嗣

で柔軟な歴史の見方を養うための教材の例として、「倫理」では生徒自らが人生観、世界観を確立するための手掛かりを得させたものが、自分の目的化し、指導のため活用できる資料の例となり、当所においても、これ

られています。「国語表現」では、新聞で取り上げられている社会のさまざまな出来事などについて課題意識をもつことが、自分の考えをまとめたり深めたりするた

めに収集、分析するさまざま題材や話題を見つける方法として示されています。また、「世界史A」では近現代世界に対する多角的な視点が改めて確認できます。新聞を活用した学習の

この関係がはつきりせず、目標に応じたどのような方が付いたのかが不明確な場合があることが指摘されています。このような課題を改善していくためには、指導計画の策定に当たっての大原則が、①目標の設定、②その目標にふさわしい学習活動の設定、③目標と学習活動にふさわしい教材題材の選択、という順序であることを再確認することが大切です。今後も、子どもたちにどのような能力を身に付けたのかを明確にした、さまざまな新聞の活用方法が工夫されていくことを期待しております。

北海道新聞ホームページ「NIE」(www.doshin-nie.com/)でバックナンバーから閲覧できます

旭教大で今年もNIE講座

スクラップで指導案づくり

教師の卵たちが新聞活用の基本を学ぶ本年度のNIE講座が道教育大旭川校で開かれている。講師を務めた元NIEアドバイザー菊池安吉さん（士別市立別中校長）と現アドバイザー福澤秀さん（旭川市立春光台中教頭）が、複数紙を使う学習指導案づくりを指導した。

2人は、新聞自体を読まない若い世代が教壇に立ち始めている現状に危機感を抱き、社会科教育学ゼミの指導教官坂井誠亮准教授と協力し、昨年から同講座を開いている。

今年初めてとなる6月30日は、1年生7人を含む30人の学生が受講。北海道新聞、毎日新聞、読売新聞

と、「国語総合」では、課題に応じて新聞から情報を読み取り取捨選択してまとめて、内容を理解して話し合ったりするが、読むことの言語活動として示さ

れています。この3紙を読み比べた後、その中から授業に使えそうな複数の記事を抽出して新聞スクラップを作った。さ

らに「導入」「展開」「整理」で構成される指導案を、自らのスクラップを活用して作成した。

福澤さんは、「複数の情報報を読みこなして精査する方法を学び、子どもたちを

引きつける授業作りに結び付けるのが今回の狙いであります」と話す。

このうち4年生の畠山展さんは、特定秘密保護法の運用をチェックする「情報監視審査会」を新設する国会法改正案が参院で審議入りの記事を、2紙から選んだ。中学公民分野の「国会の仕組みと役割」で

NIE講座で、自ら作ったスクラップを元に新聞活用の基本を指導する菊池さん（右）



指導案では、審査会の機能や問題点、立場の異なる与・野党的意見などを列記した上で、1紙の見出しが「秘密監視機関参院でも審議された半面、もう1紙より踏み込んだトーンになっていたことも触れました。畠山さんは「議員立法や院運営委員会、本会議など国会の制度・ルールを教えることを指導案の最終目標にした」と笑顔で振り返った。

菊池さんは「知的好奇心の持ちようによって、ニュースが生き生きとした授業に変わります。われわれは皆さんが教育現場に来る日を手ぐすね引いて待ちわびています」と締めくくり、学生たちを沸かせた。本年度内には、NIE講座を受けた学生が、実際に教壇に立って新聞を活用した授業を行うことになります。新聞を活用した学習の

この記述からは、新聞の活用には必ず目的があり、その目的是各科目の指導目標を達成することであることが改めて確認できま

す。新聞を活用した学習の改善していくためには、指導計画の策定に当たっての

大原則が、①目標の設定、②その目標にふさわしい学習活動の設定、③目標と学習活動にふさわしい教材題材の選択、という順序であることを再確認すること

が大切です。今後も、子どもたちにどういった能力を身に付けたのかを明確にした、さまざま新聞の活用方法が工夫されていくことを期待しております。

北海道師範塾

アドバイザー記事活用指導

新聞の特長生かし授業を

NIEアドバイザーの福澤秀さん（旭川市立春光台中教頭）と、北海道新聞NIE推進センターの船木理依委員が、札幌市中央区のホテルで開かれた教員の指導力向上を目指す北海道師範塾（吉田洋一塾頭）の講習会に招かれ、新聞を活用した授業の基本を指導した。

教員と教員志望の学生ら約60人が参加し、8月11日開かれた。福澤さんは、授業案づく

りをテーマに講話。全員に配布した北海道新聞の中から、興味を覚えた記事1本を切り抜かせ、それを使つ



授業案づくりを指導する福澤さん（中央）

小学5年生の社会科単元「くらしを支える情報」（教育出版）の公開授業が札幌地区社会科教育連盟主催の会場校・平岡公園小学校を示しながら奥尻と函館

リードという新聞の特長を生み出された。問題点に焦点を当てた授業を実施すれば、本文を読まなくともだいいい意味が分かることを教えてほしい」と話した。

授業では、同校の千葉拓士教諭が、道南の大きな地図を示しながら奥尻と函館で9月24日に開かれたⅡ写真Ⅱ。

授業では、同校の千葉拓士教諭が、道南の大きな地図を示しながら奥尻と函館で9月24日に開かれたⅡ写真Ⅱ。

小学5年生の社会科単元「くらしを支える情報」（教育出版）の公開授業が札幌地区社会科教育連盟主催の会場校・平岡公園小学校を示しながら奥尻と函館で9月24日に開かれたⅡ写真Ⅱ。

妊婦検診題材に命を学ぶ

札幌平岡公園小で公開授業



小学5年生の社会科単元「くらしを支える情報」（教育出版）の公開授業が札幌地区社会科教育連盟主催の会場校・平岡公園小学校を示しながら奥尻と函館で9月24日に開かれたⅡ写真Ⅱ。

小学5年生の社会科単元「くらしを支える情報」（教育出版）の公開授業が札幌地区社会科教育連盟主催の会場校・平岡公園小学校を示しながら奥尻と函館で9月24日に開かれたⅡ写真Ⅱ。

NIE実践奮闘記

北海道新聞の小中高生投稿欄「みらい君の広場」の学校現場における活用を紹介する。

これは、毎週木曜日と日曜日の朝刊「読者の声」欄に掲載される。木曜日にはテーマが定められ、日曜日はテーマを定めない自由投稿である。「みらい君の広場」の活用は子供たちの学力形成を保障する。理由は次の二つだ。

①「目的意識」が明快

子供たちに作文を指導する際の意欲付けに最も重要なのは目的意識である。教師は子供たちに、「何のために書くのか、誰に読んでもらうために書くのか」を明確にさせる

「新聞投稿」で児童に意欲も入選した。

②短作文の効用

る。記事になれば、全道の多くの読者に読んでもらえる。これ以上の目的意識はない。以前、教え子の投稿が掲載された際、それを読んだ幼稚園のころの先生

が必要がある。伝える相手が明確であれば丁寧に書き、推敲（すいこう）し、より良い文章にしようとする意欲が生まれる。送付すれば、担当の方に読んでもらえ

から、その子の家に電話があった。その子にとって、恩師の「読ませていただきました。頑張っていますね」という一言が大きな励みになった。そして、さらに書くことに積極的に取り組むことになり、それ以後、読書感想文コンクールでも何度も

るが指導がない。これは国語科授業の問題である。改善を要する。

私はメモ指導に重点を置いている。文種に応じて作文に必要な要素を指導している。例えば隨筆では、「題材」「出来事」「行動」「考え方」「主題」などをメモさせる。次にメモにナンバリングさせ、そのメモ

書かせてても文章を書く力は育たない。しかし、何度も短作文を書かせると文章が向上する。短い作文は子供たちが飽きない。

思考、判断、表現はすべて言語によって行われる。子供たちがどう思考・判断し、表現したのかは、書かせる見えやすい。顕在化させれば、子供の不備、不足、不十分を指導できる。したがつて「みらい君の広場」を活用した短作文指導はすこぶる有効である。

このように、「みらい君の広場」は子供たちの向上的変容を保障できる教材である。ぜひ活用して

を作文に書くように読ませる。ここまで指導した後、鉛筆を持たせ書かせること。

「みらい君の広場」は原稿用紙2枚以上書き、原稿用紙1枚程度であるため、すぐに書き終えてしまう。書き終えた後は、

このように、「みらい君の広場」を活用した短作文指導はすこぶる有効である。

このように、「みらい君の広場」は子供たちの向

からエコー画像を送信し、函館の専門医に診てもらつたりテレビ電話で相談する「ネットワーク健診」の仕組みや実情を詳しく話し、児童38人にメリットを考えさせた。「フェリーなどを

使うとお金と時間がかかるが、何より船に揺られて大切な赤ちゃんの命が危険になる」と答えた子も。

授業に先立つ19日には、利尻町立仙法志小5、6年生8人とテレビ電話を通じた交流会を行って、離島での生活のようすを学習させた。

この日は、市内の教諭約

50人が参加した。

道内5カ所でNIEセミナー

海外テーマに 山科氏が講演

●北広島

第3回北広島・石狩セミナーは8月5日、北広島市



芸術文化ホールで開かれた。参加者が過去最高となつたのは、北広島市教委がセミナーを教員の夏季研修の一つに位置付け、市内の教師が60人も参加したこと大きい。実践発表は北広島市立西部小・大根田博教諭、江別市立大麻中・岡田一之教諭、立命館慶祥中高・細川典敬教諭が行つた。毎日新聞は丘吉が丘小で開かれた。参加者は約40人。

第13回函館・渡島セミナーは9月11日、函館市立日吉が丘小で開かれた。参加者は約40人。

平沖美佐子教諭が、総合的な学習の公開授業「日本文化の素晴らしさを見直そう」を6年1組で行つた。

第4回稚内・宗谷セミナーは8月8日、稚内市立図書館で開かれた。参加者は約20人。実践発表は稚内南小・平嶋大教諭、浜頓別高・西原聰教諭、田村晋一郎協議会事務局長が「私のサヘル」をテーマに講演した。

第12回網走・オホーツクセミナーは9月5日、網走市立網走小で開かれた。参加者は約30人。尾中基浩教諭が2年国語で「見たことを伝えよう」を主題に絵はがき新聞をつくるための授業を公開した。

第6回今金・檜山セミナーは9月22日、今金町立今金小で開かれた。参加者は約30人。黒川貴功・主幹教諭が4年生の総合的な学習で、人気アニメ「ドラえもん」が米国で放送されるという記事を基に、国による文化の違いに気付かせた。

実践発表は江差町立南丘小の山本雅樹教諭、せたな町立瀬棚中の早川睦子教諭、檜山北高の石崎洋志教諭が担当した。

和食を通じて 食文化を学ぶ

●函館



アドバイザー不足 現状を懸念

北海道・東北アドバイザー会議

同協会に認定されたアドバイザーの教員ら26人が参加した。北海道から報告では、高橋恒雄・小樽市立北山中教頭が、前任の市立錢函中で取り組んだ川柳作りを報告し



(北海道新聞NIE推進センター長は本年度、道内各地で開くNIEセミナーを9カ所から13カ所

日本新聞協会は9月20日、北海道・東北ブロックのNIEアドバイザー・NIE推進協議会事務局長会議を、来年のNIE全国大会が開かれる秋田市の秋田魁新報社で開いた。

アドバイザー不足現状を懸念

（北海道新聞NIE推進センター長は本年度、道内各地で開くNIEセミナーを9カ所から13カ所に拡大したことなどを説明した。NIEの歴史が20年になる福島県ではアドバイザー不在が続き、山形県では同じアドバイザー2人の体制が10余年固定化している）など

の悩みも報告された。

宮城県の事務局長（河北新報社）は終了後、インターネット上の「かほくNIEだより」に、「北海道の話では、各地区で先生を中心とした勉強会を開催しています。宮城も、その必要性を感じました」と記している。

アニメ教材で 国の違い発見

●今金



第6回今金・檜山セミナーは9月22日、今金町立今金小で開かれた。参加者は約30人。黒川貴功・主幹教諭が4年生の総合的な学習で、人気アニメ「ドラえもん」が米国で放送されるという記事を基に、国による文化の違いに気付かせた。

実践発表は江差町立南丘小の山本雅樹教諭、せたな町立瀬棚中の早川睦子教諭、檜山北高の石崎洋志教諭が担当した。

北海道NIE推進協議会（高辻清敏会長）は8月から9月にかけ、道内5カ所でNIEセミナーを開いた。8月の北広島市では2001年のセミナー開始以来最多の110人が参加した。9月の3カ所では工夫を凝らした公開授業が行われた。

北広島 過去最多110人

●北広島
海外テーマに
山科氏が講演

第3回北広島・石狩セミナーは8月5日、北広島市

芸術文化ホールで開かれた。参加者が過去最高となつたのは、北広島市教委がセミナーを教員の夏季研修の一つに位置付け、市内の教師が60人も参加したこと大きい。実践発表は北広島市立西部小・大根田博教諭、江別市立大麻中・岡田一之教諭、立命館慶祥中高・細川典敬教諭が行つた。

毎日新聞は丘吉が丘小で開かれた。参加者は約40人。

平沖美佐子教諭が、総合的な学習の公開授業「日本文化の素晴らしさを見直そう」を6年1組で行つた。

第13回函館・渡島セミナーは9月11日、函館市立日吉が丘小で開かれた。参加者は約40人。

平沖美佐子教諭が、総合的な学習の公開授業「日本文化の素晴らしさを見直そう」を6年1組で行つた。

第4回稚内・宗谷セミナーは8月8日、稚内市立図書館で開かれた。参加者は約20人。実践発表は稚内南小・平嶋大教諭、浜頓別高・西原聰教諭、田村晋一郎協議会事務局長が「私のサヘル」をテーマに講演した。

第12回網走・オホーツクセミナーは9月5日、網走市立網走小で開かれた。参加者は約30人。尾中基浩教諭が2年国語で「見たことを伝えよう」を主題に絵はがき新聞をつくるための授業を公開した。

第6回今金・檜山セミナーは9月22日、今金町立今金小で開かれた。参加者は約30人。黒川貴功・主幹教諭が4年生の総合的な学習で、人気アニメ「ドラえもん」が米国で放送されるという記事を基に、国による文化の違いに気付かせた。

実践発表は江差町立南丘小の山本雅樹教諭、せたな町立瀬棚中の早川睦子教諭、檜山北高の石崎洋志教諭が担当した。

きょう書いた記事がすぐには印刷され、配達員さんによって次の日には購読者の元へ届く。例えばある家庭の子がスポーツ大会なんかに出場して紙面を飾ったとします。その子とその祖父母が新聞を囲んであれこれと歎談する。思い浮かべるだけでうれしい気分になります。結果がすぐに出る仕事なんてそうはないし、新聞が団らんの仲立ちになるんですね。記者といふのは本当に幸せな職業だと思っています。



＜略歴＞むらやま・いさお 1960年9月、士別市生まれ。商社勤務を経て84年10月、同市内に本社を構える道北日報社入社。2004年から編集部長。北海道シニアサッカー連盟常任理事で、地元のサッカー少年団の指導者として活躍するほか、士別市立病院応援隊などのボランティア活動にも取り組んでいる。

編集後記

○…「奥尻町立青苗中学校1年の一」。そうアナウンスされて舞台に立った小柄な少女が、フルートを奏で始めた。時折、音が外れお世辞にも上手とは言い難い。傍らでピアノ伴奏している若い女性教師が、心配そうに何度も何度も少女に視線を送っていた。たちまち涙腺が緩み、2人の姿がかすんでしまった。「日本って良い国だ」。しみじみと、そう思ったことを今でも記憶している。

○…200人を超える死者・行方不明者を出した北海道南西沖地震は、1993年7月に起きた。津波に襲われた青苗はもともと被害が甚大な地域だった。少女は12年後、道南地区の児童生徒が出席するアンサンブルコンクールのステージにいた。年齢をさかのぼると、震災時は1歳前後か。親かだれか、大人に背負われて高台に避難し、大切でかけがえのない命を無事に守ってもらったのだろうと、想像した。

○…教育の機会均等。離島であれ被災地であれ、そこに子供がいる限り、国や自治体は学ぶ機会を保証する責務がある。そしてその重要な役割は、第一線に立つ教師が担っている。必ずしも条件の良くない地域で、教え子を慈しみながら日々努力している、冒頭の女性教師のような方にお会いすることがある。「良い先生だなあ」と思いながら、1日中、得をした気分に浸ることがある。(葛)

僕も今年、記者歴30年の節目を迎えるました。札幌市の内商社で営業マンをしていましたが、当時の（道北日報）編集部長から誘われて古里・士別にUターン執筆しています。

一方で、とにかく顔を覚えてもらう、「村山功」を認識してもらうため、いろんな所に通い詰めました。記者つて「記事を書く人」と

な動きがありましたが、伝えるなければならぬ情報をお、正確に迅速に送り続けたと自負しています。合併をめぐるさまざま動きの背景にあつたのは「人間模様」。自慢話になります

新聞メディアの地盤沈下が、それこそ全世界的なニュースです。実現するまでの数年間は、和寒、剣淵両町を交えてさまざま問題になっています。でも僕はあんまり心配していません。人口2万人強の士別の高齢化率は現在35%です。お年寄りの情報源は依然として紙媒体であり、それはある意味、ローカル紙の強みだと思います。お年寄りの情報源は依然として紙媒体であり、それはある意味、ローカル紙の強みだと思います。

問題は情報のコンテンツ、端的に地域と寄り添つた記事をいかに送り続けることができるのか、ということに尽きます。われわれの親兄弟、子供、親類は士別に住んでいます。読者とわれわれは運命共同体であり、古里が少しでもよくなることを願っています。同時に、2万人それぞれには2万種類の人生があり、物語があるのです。その視点さえ忘れないれば記事の源は無尽蔵です。

が、当事者の思惑や苦悩、その結果としての行動を自分なりに把握できていいのではありません。読者とわれわれは運命共同体であり、古里が少しでもよくなることを願っています。同時に、2万人それぞれには2万種類の人生があり、物語があるのです。その視点さえ忘れないまま、「何がニュースなのか」が問われる記事書きや、カメラの撮影アングル、現像方法などを先輩に叱られながら身に付けていました。

新聞ってステキ!

村山 功さん 2

原稿用紙のマス目をペンで埋める手書きの時代でした。カメラもフィルムのキヤノンAE1。右も左も分から不再いま、「何がニュースなのか」が問われる記事書きや、カメラの撮影アングル、現像方法などを先輩に叱られながら身に付け

9年前の2005年9月、士別と隣接する旧朝日町が合併しました。うちの地方にとつてはビッグニュースです。実現するまでの数年間は、和寒、剣淵両町を交えてさまざま

新聞メディアの地盤沈下が、それこそ全世界的なニュースです。実現するまでの数年間は、和寒、剣淵両町を交えてさまざまな問題になっています。でも僕はあんまり心配していません。人口2万人強の士別の高齢化率は現在35%です。お年寄

りの情報源は依然として紙媒体であり、それはある意味、ローカル紙の強みだと思います。お年寄りの情報源は依然として紙媒体であり、それはある意味、ローカル紙の強みだと思います。